

2024年1月末刊行 〔編集復刻版〕

占領期奄美・沖縄の青年団資料集

全4巻・付録1・別冊1 揃定価 110,000円（本体価格 100,000円＋税10%）

ISBN 978-4-8350-8529-6

体裁＝B5判・B4判・A5判、上製クロス装、1,908頁

編・解説＝山城千秋（熊本大学）、農中 至（鹿児島大学）

別冊収録内容＝解説・コラム（櫻澤 誠、藤澤健一）

総目次（近藤健一郎）・索引



『占領期奄美・沖縄の青年団資料集』刊行の辞

編・解説 山城千秋、農中 至

本資料集は、米軍占領期における奄美および沖縄群島の青年団機関誌・紙を収録するものである。奄美・沖縄の戦後史の特徴は、青年団運動と不可分の関係にあることである。戦後の奄美・沖縄において、戦災からの郷土復興をはじめ、遺骨収拾運動、祭事・郷土芸能の再生、そして祖国復帰運動の中核を担ったのは青年たちであった。奄美・沖縄の青年団が同時代に先導した祖国復帰運動は、米軍支配と対峙し、平和や人権、自由と抑圧にかかわる人間解放をめざした運動としてひときわ異彩を放つ。熾烈な復帰運動を展開する青年団員の精神的支柱とされたのが、機関誌・紙である。

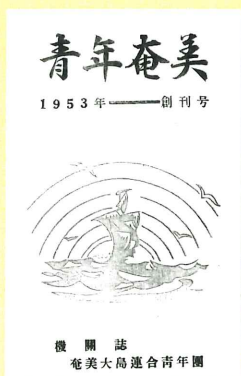
本資料集全4巻では、奄美大島連合青年団『新青年』（1950～1953年）及び『青年奄美』（1953年）、沖縄青年連合会『沖縄青年』（1949～1953年）、沖縄県青年団協議会機関紙『沖縄青年』（1956～1960年）、沖縄産業開発青年協会『青年隊だより』（1960～1961年）の各機関誌・紙のほかに、付録1として沖縄県青年団協議会『十周年記念 沖縄県青年団史』（1961年）を復刻する。これらは主に群島分割統治時代に発刊されたものであり、米軍検閲下にあった青年団の運動方針や群島各地区の活動状況、文芸活動の実態のほかに、奄美および沖縄群島の政治・生活・文化状況を知ることができる。

島々における祖国復帰運動は世界史的にみても重要な

出来事であるにもかかわらず、米軍基地が存在する沖縄の動向に関心が集中し、奄美の復帰運動については、これまで十分な注目が集まってきたとはいえない。また、運動の一翼を担った奄美の『新青年』についてはその価値が問われてきた経緯があるものの、沖縄の『沖縄青年』は今日までほとんど注目されてきておらず、当時の青年団の実態を把握する上でも資料的価値は高い。さらに、忘れてはならない同時代的な動きに沖縄産業開発青年隊の創設がある。米軍基地建設と土地接収により働く場を奪われた青年たちを「移民青年隊」として海外に送出してきた沖縄産業開発青年隊は、機関紙『青年隊だより』を発行した。これは経済的自立と海外雄飛をめざす青年たちをどのように勇気づけ、鼓舞しようとしたのかを知る上でも示唆に富み、占領期沖縄の青年対策・青年教育の内実を知る貴重な手がかりを示している。

米軍占領期の青年たちが、奄美・沖縄の現状をどのように捉え、世界に対してなにを訴えかけようとしたのか。本資料集の刊行は、占領期の青年教育、社会教育に接近するのみならず、これまで個々独立に捉えられがちであった同時代的な奄美と沖縄の青年団運動の行方の解明に資するものである。数々の言説は、青年たちの思考と立場の多様なあり様を示すとともに、貴重な歴史を語るものである。

本資料集は、戦後奄美・沖縄の歴史、青年団運動、祖国復帰運動に関心を寄せる人々に新たな発見をもたらすはずである。



●●● 各雑誌とその発行団体 ●●●
『新青年』（1950～1953年）・『青年奄美』（1953年）
：奄美大島連合青年団（名瀬市四谷区青年団）発行
『沖縄青年』（1949～1953年）：沖縄青年連合会発行
『沖縄青年』（1956～1960年）：沖縄県青年団協議会発行
『青年隊だより』（1960～1961年）
：沖縄産業開発青年協会発行
*『十周年記念 沖縄県青年団史』（1961年）
：沖縄県青年団協議会刊行

不二出版

軍事占領・異民族支配と闘った記録 としての青年団機関紙

上野景三（西九州大学教授）

——ここに収録されている『新青年』は、復帰運動の理論的支柱ともなった青年団の機関誌であった。（中略）島民の生活苦を代弁してくれる組織が青年団であった。この延長線上に復帰運動がある。青年団として軍事占領による異民族支配、つまり祖国復帰を問題にせざるをえなかったわけである。復帰運動の先頭に青年団が立つことは、占領軍の弾圧、つまり投獄・重労働と闘うことであった。戦後の青年団史上、これほど権力と対峙した例は、他に類を見ない。これらの経験が沖縄の青年団運動に伝播する。その記録が、ここに収録されている。

想像力を広げる青年運動の復刻資料

平良研一（沖縄大学名誉教授）

——悲惨な沖縄戦後の生活を巡る活動、それにまつわる苦悩や希望、そして頻発する米軍による事件、事故から住民を守るために身を挺して闘ったことなど、これらの苦難に果敢に対峙したのは地域の青年団であった。また一方で、青年組織とは別であるが、米軍基地に侵入し「戦果」（米軍物資の窃盗）を挙げる義賊的な青年達がいたことも事実として語られている。青年団運動で特筆される祖国復帰闘争は、理不尽な米軍支配から脱却し、民主主義と平和憲法の下へ帰る願望であった。これは「辺野古」に象徴されるように今も重い課題であり続けている。

『新青年』は奄美青年の青春の記憶

崎田かづ子（奄美大島連合青年団元事務局員）

——このたびの『新青年』復刻出版に、当事者の一人として感謝と喜びでいっぱいです。（中略）私たちの『新青年』は、軍政府の監視下に置かれながらも、青年たちが意気軒昂として祖国復帰、民主主義そして平和を主張できる唯一の媒体でした。本誌は、青年団をはじめ婦人生活擁護会、労働組合など幅広い読者をもち、沖縄や本土にも郵送していました。（中略）当時、二十歳前後の私たち青年団は、機関誌や祖国復帰運動を介して、社会や政治情勢について学んだものです。（中略）占領下の青年たちの島を愛する情熱が『新青年』には込められており、同時に私たちの青春の記憶が刻まれています。

『（編集復刻版）占領期奄美・沖縄の青年団資料集』収録内容・対照表

*分売可

復刻版巻数	書誌名称	号	発行年月日	分売価格・ 分売用ISBN	
第1巻 B5判 計432頁	『新青年』	4号(8月号)	1950/8/24	27,500円 (本体価格25,000円 + 税10%) ISBN 978-4-8350-8530-2	
		9月号	1950/9/21		
		5号(11月号)	1950/11/3		
		6号(12月号)	1950/12/13		
		7号(2巻1号) 2巻新年号	1951/1/25		
		8号(2巻3号) 2・3月合併号	1951/2/21		
		9号(2巻4号) 4月号	1951/3/25		
		10号(2巻5号) 5月号	1951/4/25		
		11号(2巻6号) 6月号	1951/6/8		
		12号(2巻7号) 7・8月合併号	1951/8/17		
		13号(2巻8号) 9月号	1951/9/21		
		14号(2巻10号) 10・11月合併号	1951/11/1		
		第2巻 B5判 計406頁	『新青年』		15号(2巻11号) 12月号
16号(2巻12号)	1951/12/30				
17号(3巻2号) 4月号	1952/3/25				
18号(3巻3号) 5月号	1952/4/25				
19号(3巻4号) 6月号	1952/5/25				
20号(3巻5号) 7月号	1952/7/1				
21号(3巻6号) 10月号	1952/10/8				
22号 12月号	1952/11/30				
23号(4巻) 新年号	1953/1/1				
24号(4巻)	1953/6/10				
25号(4巻)	1953/7/31				
『青年奄美』	創刊号(第1巻第1号)			1953/12/20	
第3巻 B5判 計406頁	機関誌『沖縄青年』			号外1号	1949/4/7
		創刊号	1949/6/5		
		2号	1949/9/1		
		3号	1950/6/15		
		特別号「弁論の心得」	1951/3/20		
		4号	1951/4/15		
		5号(第3巻1号)	1952/5/1		
		6月号(第3巻2号)	1952/6/1		
		7月号(第3巻3号)	1952/7/20		
		8月号(第3巻4号)	1952/8/20		
		9・10月合併号(第3巻5号)	1952/10/20		
		11・12月合併号(第3巻6号)	1952/12/25		
		3月号(第4巻1号)	1953/3/25		
第4巻 B4判 計54頁	機関紙『沖縄青年』	2号	1957/10/5	5,500円 (本体価格5,000円 + 税10%) ISBN 978-4-8350-8533-3	
		8号	1958/5/10		
		9号	1958/10/10		
		10号	1958/11/10		
		11号	1958/12/10		
		12号	1959/1/10		
		15号	1960/6/10		
	『青年隊だより』	創刊号	1960/2/1		
		第2号	1960/4/1		
		第3号	1960/6/1		
		第4号	1960/8/1		
		第5号	1960/10/1		
		第6号	1961/2/1		
第7号		1961/6/1			
第8号	1961/11/1				
号外	発行日不明				
付録1 A5判 610頁	『十周年記念 沖縄県 青年団史』 19,800円(本体価格18,000円 + 税10%) ISBN 978-4-8350-8535-7 (分売用)	【原本欠号】 『新青年』創刊号・2号・3号(1949年)／5号(1950年) ／7～10号(1951年)／26号(1953年)			
別冊1 A5判 210頁	解説・総目次・索引 2,200円(本体価格2,000円 + 税10%) ISBN 978-4-8350-8537-1 (分売用)	『沖縄青年』1号(1956年)／3～7号(1957～1958年)／ 13・14号(1959年)			

振替
TEL
03-5998-1670
0016002194084
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10

不二出版

表示価格はすべて税込